



夢の家 お仕事体験 フェスティバル



2019年9月22日、職人の仕事を実際に体験できる注目イベント「夢の家 お仕事体験フェスティバル」が大阪府の花博記念公園鶴見緑地ハナミズキホールにて開催された。このイベントでは一般社団法人未来とコラボと株式会社アクアスの呼び掛けによって集まった「家作り」にまつわる設計、左官、水道工事、塗装、コンボ運転など色々な仕事が一堂に会し、子ども達がプロの職人と一緒にリアルな職業体験ができるというイベントである。この他にもステージイベントや子ども屋台、お菓子まきといった参加する小学生を対象とした楽しい企画も用意されている。今回、本誌編集長である株式会社NEXTWORKERZ山下氏と現役の職人であるEXIT専属モデル3名も、主催者との縁を通じて「職人体験ブース」に参加。イベントに参加した500名を超える多くの子ども達と、自分達の「仕事」を体験してもらう事で、普段は知られる機会の少ない職人としての生き方を見せると共に、業界の未来を子ども達に託していく為に必要な事を強く感じられたイベントとなった。

<https://miracolla.jp/special/yumenoie/>

満員御礼 Festival of Dream House

様々なプロ職人と一緒にリアルな職業体験ができるイベントに EXIT 取材班が潜入！
参加された多くの子供達と「仕事体験」を通じて、主催者が伝えたい「未来への想い」を語る。





しているという事を聞いて大浦氏はたまらなく嬉しくなるそうだ。今回のイベントも先日、無事に終わったばかりにもかかわらず次回が待ちきれず「来年は何をしようか」と聞いている職人も少なくないという。

「僕は現場が好きで学生の時も現場で手元のバイトをしていました。そんな事もあり設計士となった今でも、現場で職人さんと話をするのが好きです。でも現場で作業される職人さんの中には自分達が毎日やっている仕事の素晴らしさに気づいていない方もおられます。建物を作りあげていくうえで誰一人も欠かれないという事の重要性を伝えたい。『どうせ俺ら職人は...』なんて事を言わない、言わせない世の中にしたいと思っています。このフェスティバルに参加してくれる子ども達にとっては、職人さん一人一人がヒーローなのです。街中で働く一人一人の職人さんが自分たちの仕事の尊さに気付いてくださり、堂々と誇りを持ってくださる職人さんが増えれば業界が、世の中が必ず良くなると思っています」

今後の展開

開催当初は62名の子どもたちで始まったフェスティバルも、5回目を終えて参加する子どもたちは500名を超える規模まで成長した。大浦氏の願いは、このフェスティバルが自分たちだけの限られた地域で開催されるのではなく、全国各地の賛同者の方々と共に開催していく、一人でも多くの子ども達に業界の素晴らしさを



大浦昌尚氏

株式会社アクアス 代表取締役 一級建築士・盛和塾生
1969年奈良県に生まれる。指物師と棟梁という二人の祖父の血を受け建築の世界に入る。34歳で株式会社タウン設計の代表取締役となり、40歳の時にMBOにより株式会社アクアス設計を創業し現在に至る。人間学を学ぶ月刊誌「致知」に出会い、稲盛和夫氏、鍵山秀三郎氏、秋山利輝氏に人としての生き方を学ぶ。

を知ってもらいたいという考えである。

「最近では我々のイベントに参加された協力業者の方々が、自分の地元である市を巻き込んで開催されました。その他にも見学に来られた建設会社さんが「自分達も開催したい!」と言って相談してくださったり嬉しいかぎりです。今後は建築だけにどまらず、いろいろな業界でこのように、子ども達に体験してもらえるイベントが開催される事を願うと同時に、いくつもの業界と合同で開催したいと夢見ています」

体験を楽しむだけのイベントではなく、働く目的意識に気付いてもらう、誰かを思いやる美しい心が育まれる、そんな内容により子ども達だけでなく参加してくれる職人達にも伝えていきたいと壮大な計画を語る大浦氏。「これからも力を合わせて未来の子どもたちの為に、業界の為に長く続けていきます」業界活性化に繋げる大浦氏の活動に期待が高まる。



注目の体験イベントについて主催者である 株式会社アクアス代表取締役大浦昌尚氏に開催に至るまでの経緯を語って頂いた

私 は以前、児童養護福祉施設の子ともたちをUSJに招待するボランティアに参加した事があるのですが、そこで出会った子どもたちと付き合う中で、彼らにも自分と同じ仕事である「建築設計士の道に将来、進んでくれたら嬉しいなあ」と思ったのがきっかけでした。

人手不足で困っているこの業界の為に良い考えだと思い、その話をボランティア仲間と話したところ、高校を卒業すると施設を出る必要があるなど多くの困難がある事、やってみたい仕事を選ぶ事や、自分達のやりたい職業についての選択肢が限られてしまう事を教えられました。その事実を知って、自分は本当に悔しい思いをした事を今でも覚えています。この幸せな世の中で自分のなりたい職業に就けない子どもがいるなんて、あんな仕事したい!と、子どもが思う事も制限される世の中なんて...と思ったんです。

その事を知った後、また別のボランティア活動に参加した際に、ある高校生と知り合いました。海外の留学生ボランティアも一緒に活動する中で、彼は「生懸命に英語でその留学生に話しかけるのです。感心した私が『凄いな』と話しかけたところ、『僕、将来英語で仕事をするのが夢なんです。だから関西大学の外国語学部に進学も決まりました』と教えてくれました。高校卒業後は施設を出るという決まりがあるが、大学に進学するなら20歳まで居られるという事や、今は一人暮らし出

来るようにアルバイトを2つ掛け持ちして施設を出た後の暮らしに備えているという事も聞けた。「アルバイトしながら勉強して大学受かったの?」と驚きながら私が尋ねたところ「はい!中学の時のからの夢なんです!」と、最高の笑顔で答えたのです。

そこで気付いたのです。「そうか、自分のなりたい夢が見つければどんな努力もするんだ。だってその夢のきっかけになるものを自分が子供たちに見せてやりたい!」あらためてなぜ、自分は設計の仕事をしているのかを考えたら、母方が工務店をやっていた小さいときから大工さんをはじめ職人さんを見てきて「カッコいい!」と思ったからでした。会社の同僚や周りの職人さんに聞いても同じで、親やおじさんが建築業だったからという人や、子どもの時に家を建て替えてくれた職人さんの姿を見て、という人もいました。やっぱりそうかと思えば、僕は建築だから先ずは僕らにできる建築の素晴らしさを知ってもらおう。そして子どもたちの「夢」の選択肢の一つにしてみたら嬉しいなと思うのがきっかけです。

業界や子ども達への想い
このイベントでは多くの子ども達が本当に嬉しそうに職人達と仕事を体験しているが、楽しんでいるのは子供だけではないようだ。体験ブースを出展する側の職人達も「子ども達とこんなイベントがあつて」と後日、作業現場で周りの職人達に自慢